

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3771400243
法人名	株式会社ひまわり
事業所名	グループホームひまわりの家
所在地	香川県高松市香川町大野901-1 (電話) 087-885-6115

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年12月11日	評価決定日	平成21年1月15日

## 【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年12月1日
ユニット数	3ユニット 利用定員数計 27人
職員数	31人 常勤 22人, 非常勤 9人, 常勤換算 23.2人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨不燃造り 2階建ての1階～2階部分
------	------------------------

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	20,000円	
敷金	有( )円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,400	円	

## (4)利用者の概要(12月11日現在)

利用者人数	27名	男性	4名	女性	23名
要介護1	6名	要介護2	7名		
要介護3	5名	要介護4	5名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.3歳	最低	77歳	最高	99歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	谷本内科医院	高松病院	屋島総合病院	高橋歯科
---------	--------	------	--------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに小・高校の文教施設、ショッピングセンターがあり、国道が走っているが、静かな佇まいを感じさせる近隣商業地域にある。創設者の高齢者に対する思いがあふれる基本理念がかかげられている。スタッフの育成にも積極的でスタッフは、働きがいを感じながらスキルアップに意欲的である。食材は「ひまわり農園」の新鮮な季節の食材を基に、栄養バランスを考慮した献立で利用者は食事を楽しんでいる。医療機関との連携も確保されており、安心した生活が送れる体制が整っている。利用者スタッフの良好な人間関係に基づいた家庭的な生活環境は地域密着型サービスの模範となりうる事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で課題となった家族などへの報告については、スタッフミーティングの機会を利用して職員への周知が図れ、報告・検討・改善へと取り組みが行われ、より一層家族の安心につなげている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義と必要性は全職員が認識しており、管理者を中心に、ミーティングで意見を出し合い、各ユニットで自己評価を作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、ホームの現況・活動が報告されている。各出席者からの提案・懸案事項をはじめ、職員研修内容・介護報酬改定・地域イベントの紹介など多岐にわたって情報交換を行い活発な活動がうかがえる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に積極的に家族に声をかけ近況報告をし、要望・苦情などを聴いている。また、玄関に苦情・相談箱を設置している。得られた意見・苦情は職員間で検討し、朝礼で職員に周知しサービスに反映するよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常的にボランティアの訪問をはじめ、生徒の職場体験受け入れ、地域やホーム独自のイベント参加など多角的に地域との交流が組み込まれ、ホームが地域とのつながりを大切にし、また利用者が地域の一員として地域で必要とされる活動や役割を担っていくための支援をしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	創設者の思いにあふれる地域密着型サービスを目指した理念が掲げられ、地域で暮らし続ける支援に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は理念を共有し、毎日の朝礼時に全員で唱和している。日々の実践の中でも理念に沿った考えで取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的なボランティアの訪問をはじめ地域の文化祭やお祭り、ホームのイベントを通じて地域の一員である意識は高く、積極的に参加し交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員共に自己評価・外部評価実施の意義を十分に理解している。職員全員で自己評価を行い、話し合いながら課題を明らかにし、管理者がまとめている。外部評価の結果はスタッフミーティングなどで話し合い改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催している。参加メンバーの人々が運営推進会議の意義や役割を理解して、グループホームの取り組みや現況について、意見交換を行い地域からも理解され協力関係もできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも市町の担当者や地域包括支援センターと行き来して、連携強化に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回「ひまわり便り」を発行し、利用者の近況を報告している。面会は殆どの方が月1回以上あり、その折に暮らしぶりや健康状態、金銭出納などを報告している。また、必要時にはその都度電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を気軽に伝えてもらえるような隔たりのない関係づくりに努めている。家族の意見や要望などは傾聴し迅速に対応している。得られた情報は、朝礼時、申し送り簿で全職員が共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動・離職は殆どない状態で、利用者の馴染みの関係を保つことを重視した配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修意欲は高く、内部研修・外部研修共に受講環境が整っている。研修後は復命書を作成し全員に周知して、職員の介護技術の質の向上に努めている。また、専門誌を購読している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加している。また、グループ事業所内の交流会に参加して、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流や災害時の連携がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に医療連携病院を受診し、また利用者のご家族からの情報を基に会話を大切にしながら、職員や他の入居者との馴染み関係を築き、本人の生活ペースを尊重しながら安心して生活できよう支援している。	○	利用者が安心して、納得した上でサービスを開始することは大切なことと思われる。事前に利用者の見学や家庭訪問を行い、馴染みを深めて利用開始するような工夫も考えられる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者ができることを尊重し、信頼される関係を築き親子関係のような支え合う関係づくりに留意している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声かけや見守りをする中で会話や表情から利用者の思い・希望・意向の把握に関心を払い、否定はしないよう対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向や家族の希望、医師など関係者の意見を聞き、また職員の意見や気づきを反映して、計画作成担当者が個別性のある介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリング・介護記録・家族や本人の要望などにより3か月ごとの定期的な介護計画の見直しが行われている。また、状態の変化時には、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の付き添いは要望に応じて介護タクシーを使用したり、買物などの要望に柔軟に支援・対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の受診を希望される方は、家族の支援のもと継続して受診しているが、その他、要望に応じて柔軟に対応支援している。協力医療機関とは日常的に連絡を取り、往診や緊急時の支援が可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	2年前には看取りの経験があり、重症化した場合や終末期については、協力医療機関や事業所責任者、家族などと話し合い、利用者の希望に沿えるような体制ができている。また、全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護・管理の徹底を図っている。職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーの保護を大切に排泄や言葉かけなどに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、声かけや見守りの中でその人らしく過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回の希望献立の日があり、献立を一緒に考え買い物、下膳や食器洗いなどできる方には参加してもらっている。また、外食やテイクアウト(弁当など)を楽しむこともある。ひまわり農園の新鮮な野菜を用い、おいしい食事の提供を目指し、栄養士による献立を調理師が全て手作りで用意し、できる方は味噌汁や副菜作りをしている。	○	できる利用者が食事作りに参加しているが、一連の食事作りに関して利用者が前向きに気持ちを引き出せるよう、個々に応じた声かけや機会づくりの工夫が望まれる。また、職員が同じ食卓を囲んで、落ち着いて楽しく食事ができる雰囲気づくりが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望・体調に合わせて介助入浴を支援している。回数・時間なども希望に沿うように配慮し、特殊浴も設備している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や能力を活かして洗濯たたみ、清掃、ごみ出し、新聞受け取り、繕いなど役割のある生活を送っている。また、「ひまわり農園」での収穫、縫い物など得意分野での楽しみごとの支援をしている。新聞を継続的に購読している利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出支援の必要性を理解して散歩や買物、喫茶などに利用者の希望や体調に合わせて支援しているが、その頻度は多くない。	○	利用者が重度化している場合でも、本人に合わせた移動の配慮をしながら、日常的に一人ひとりが外出を楽しめる支援をしていくことを期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は開放して見守り支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回の防災訓練を行っている。緊急時、グループ内事業所からの支援体制が整っている。災害に備え、水・燃料については準備しているが、他の品の備蓄までには至っていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は常にチェックし記録されており、職員が情報を共有している。2か月に1回体重測定・血液検査・検尿を行い、利用者一人ひとりが必要な食事や水分が取れるよう支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は自宅の延長のように家庭的な雰囲気で作りのひざ掛けなどの小物を用意している。玄関・廊下などには季節感のある飾りつけがボランティアの手作りで飾られている。清掃も行き届き、空調も保たれ落ち着いた居心地よい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室のスペースは比較的広く、備え付けのベッド、洗面台が用意されている。持ち込みの馴染みの調度品で、あるいはホームの備品で室内は整えられ居心地よく過ごせるような工夫がうかがえる。		